

令和二年度 第二回延期公演

観世流

緑泉会

令和三年

二月十一日(木・祝)

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂

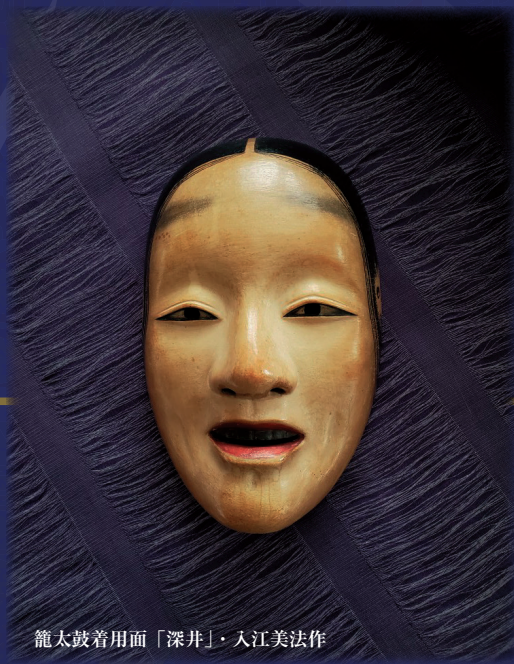


「鶴 白頭」中所宜夫 (撮影 芝田裕之)

お客様各位

国の活動自粛要請によりやむなく延期致しましたが、第二回例会の延期公演を開催致します。新型コロナウイルスの感染が拡大しつつある中、この先の状況がどのようになるかわかりませんが、能楽の公演が、たとえ束の間でも、皆さまの心の安らぎとなるよう努めて参りたいと思います。

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、今回は、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催します。



籠太鼓着用面「深井」・入江美法作

【お客様へのお願い】

- ・ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- ・チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先（メールアドレス、または電話番号）をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に記帳をお願い致します。
- ※万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- ・当日の社会状況により、使用可能な座席の指定ならびに館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従って下さい。
- ・上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音が障りになる場合もございますが、ご了承下さい。
- ・上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

能 Noh..... 籠太鼓 Rontako 杉澤 陽子

狂言 Kyogen... 富士松 Fujimatsu 大藏 吉次郎

能 Noh..... 鶴 白頭 Nue shirogashira..... 鈴木 啓吾

清次妻 杉澤 陽子

能 籠太鼓

松浦ノ某 大日方 寛

大鼓 佃 良勝

小鼓 森 貴史

笛 槻宅 聡

領手下人 善竹 大二郎

後見 河井 美紀

津村 禮次郎

地謡

吉留 敬高
坂 真太郎
中所 宜夫
奥川 恒治
桑田 貴志

狂言 富士松

太郎冠者 大藏 吉次郎

主 榎本 元

仕舞

東方朔

河井 美紀
新井 麻衣子

杜 若 墨 敬子

地謡

筒井 陽子
坂 真太郎
永島 充
佐久間 二郎
中森 健之介

融

津村 禮次郎

能 鶴

舟人 鈴木 啓吾

旅僧 殿田 謙吉

里人 大藏 教義

大鼓 原岡 一之

小鼓 住駒 充彦

太鼓 吉谷 潔
笛 一噌 隆之

後見 新井 麻衣子
永島 充

地謡

藤村 答
佐久間 二郎
中森 貫太
中所 宜夫
中森 健之介

附祝言

【終了予定 午後四時十五分】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

能：籠太鼓 (ろうたいこ)

九州松浦の何某(ワキ)が登場し、家来の関の清次が罪を犯したので籠に入れた事を語り、下人(問狂言)にその番を申し付ける。しかし清次は既に籠を抜け出していた。松浦某は清次の妻(シテ)を引き立てて来て行方を尋ねるが、知らぬと言うので女を籠に押し込める。下人は女を罵るが、松浦某はこれを咎めて、籠に鼓を掛けて時を打って番をするように命じる。

その夜、女は狂気する。肩脱ぎに肌を露わに泣き伏す様は、番をする下人にもそれと知れ、松浦某もやって来る。女は、清次の行方を教えれば放免すると言う松浦某の懐柔を拒み通し、遂に夫婦共に赦すと言葉を得る。それでも狂気は収まらない。下人が時を打った鼓に目をとめ、時の知らせをなぞるようにこれを狂い打つ。最初夕暮れの六つの鼓から始まり、「五つの鼓は偽りの契り」、「四つの鼓は世の中の恋」と時の流れに沿って進む。最後に九つの夜半の鼓を打つと、夫の面影が立ち現れて、身代わりになっていることを喜び、籠を夫の微に見立てて、閉じ籠った。

松浦某が八幡神に誓言するに至って、遂に狂気は去り、女は清次の行方を明かす。松浦某は誓言に従い、親の十三回忌を理由に罪を許す。

筑前を舞台にした世阿弥作の異色の劇能。「狂気する」と言っても現代的な狂気とはかなり異質で、芸術的な要素が強い。

狂言：富士松 (ふじまつ)

無断で旅をしていた太郎冠者が戻ったと聞き、主人はその私宅へ行き太郎冠者を叱るが、富士参詣と聞いて機嫌を直す。太郎冠者が富士の松を持ち帰ったと知り、その松を見ればどうしても欲しくてたまらない。松をかけて連歌で勝負をするが、太郎冠者は達者で、下のくり出す上の句下の句に、それぞれ巧みに下の句上の句を付ける。主は次第に不満を募らせ、最後に太郎冠者は「螻蛄腹立つれば鶴喜ぶ」と、怒っている主人をケラに例える句を付けたため、主はこれを叱りつける。

仕舞

漢の武帝の治世を称えて、東方朔と西王母

の二人の仙人が舞を舞う。やがて夕陽も傾き、二人は武帝に暇を告げ、再訪を促されるが、そのまま籠に乗って雲路遙かに帰って行く。

現行の仕舞で複数人で舞う曲は七、八番あり、その中の一つ。

杜若(かきつばた)

三河国八橋でその昔在原業平の歌に詠まれた杜若の精が、旅僧の夢中に現れ、草木までも成仏する有様を見せる。あたりには杜若に菖蒲も混じり卯の花も咲いている。その白い花に誘われるように夜が白々と明ける。

融(とる)

昔、都五条に塩釜の浦を模した壮麗な御殿・河原ノ院を作った、源融の霊が、荒れ果てた遺跡を訪ねた僧の夢の中に現れ、往時の栄華を舞に舞う。

能：鶴(ぬえ)

諸国一見の僧(ワキ)が三熊野での山籠を果たし西国行脚に向かったところ、芦屋の里で日が暮れた。里人(問狂言)に宿を請うが禁制を理由に断られ、洲崎の御堂に夜を過ごすこととなった。夜更け、海に舟影が立ち、茫として人影(前シテ)が見える。苦しみと嘆きに満ちている風だが、言葉を変えれば「芦屋の灘の塩焼き暇なみ黄楊の小櫛はささず来にけり」と古歌を引く風雅も見せる。舟人は鶴の亡心だった。近衛院の時、帝の災厄となり源頼政に退治された子細を物語り、再び舟を揺らめかせながら帰って行った。

様子を見に来た里人に鶴のことを尋ね、僧はその亡魂を静めようと海に向かつて読経する。鶴(後シテ)が本性の姿で現れ、頼政に退治された有様を再び詳細に物語る。時に頼政の仕種をなぞりつつ舞う舞は、頼政の放つ矢に射抜かれて死んだ有様、頼政が御剣を下賜され、歌で名を上げた事、死骸をうつほ舟(丸木をくり抜いた舟)に入れて流された顛末を描き、最後は山の端に傾き沈みゆく月とともに海へと消えてゆく。白頭の小書は、常は赤頭の後シテが白頭を着け、位取りを重んじた型に変わる。

2021. 2.11 (木祝) PM1:00 (開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9
☎ 03-3491-8813

JR・東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩 7分
香港園手前の道を左折し約 400m 直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



入場料

会員券 (年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円
1回券 (当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

杉澤 陽子 TEL&FAX 03-6326-6645
鈴木 啓吾 TEL&FAX 03-3269-7018

令和3年度 第1回例会 5月30日(日)

能… 鶴亀 Tsurukame…………… 杉澤 陽子
能… 藤 Fuji…………… 津村 禮次郎